

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中で根ざしたサービスを提供していけるよう、意識し、理念に掲げている。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	何かにつづつは、理念に戻り、話し合っている。日々の申し送りの時など、理念を意識し、共に話し合っているが十分とは言えない。	○	日々のミーティングで、再度、掘り下げて意識し、考えていく。
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族の方にはホーム便りを活用し、理念を盛り込み、面会時にも意識して話をするよう心掛けている。地域の方々とは、積極的に関わってないのが現状である。	○	地域的な面とけ込むことはなかなか難しいが、勉強会や地域包括センターの方々の力も借り、まず、立ち寄りやすい場所であるように、回覧板などにグループホームのことも掲載してもらったりして、少しずつ進んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域的にご近所の家など付き合いが難しい面もあるが、病院での面会が終わったご家族の方や、外来患者さんには必ず挨拶をし、日常的に話している。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の小学校より、授業の一環として、お年寄りの生活を学び、お手玉・おはじきなど、昔の遊びを通して交流をもっている。町内会の夏祭りに参加し、地元の方と交流している。		
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所の実践内容を踏まえ、様々な研修・介護教室に関わりながら認知症ケアの勉強を行っているが、地域の高齢者への啓発までには至っていない。	○	地域に対して、ホーム便りを利用し、相談機関として立ち寄ってもらえるように考えている。実際、数名、地域の方が見学に入らしたりと、前年に比べ認識はされている印象である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義・ねらいは、職員で毎年話し合い取り組んでいる。入居者さんも入れ替わったりと日常的なことも若干変化があるが、改善点を意識し取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、日常の様子・レクでの様子など、サービスの実際の様子を発表し、意見をもらっている。意見・ご要望があった際は職員全体で話し合うようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者との連携は多いとは言えないが、地域包括センターの方に勉強会としてグループホームに来ていただいたり、区役所の担当の方と情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	情報としては理解しているが、職員とともに学ぶ機会までは至っていない。	○	地域包括センターのお気軽講座を利用し、地域の方・ご家族の方にも呼びかけ、勉強会を開いていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法は理解している。職員・ご家族の方向けに地域包括センターのお気軽講座を利用し、虐待について考えている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	あらかじめ契約書に目を通しておいてもらったり、時間をとって説明をしている。体調面・ケアに関する考え方も理解・納得できるよう話し合いをもっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の日々の言葉・様子を察し、意識してかわり、利用者本位の運営を心掛けている。話し合いに出された意見は、日々のケアに活かすようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には、必ずスタッフ側から声をかけ、日々の様子や健康状態等の報告をおこなっていると、介護記録にも目を通してもらっている。また会えない場合には、お便りや電話連絡を取り情報交換を行っている。金銭管理も月に1回、記録を郵送し、確認していただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に対しては、訪問時、手紙・電話でも何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。改善策は職員全体で話し合いをもつようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングは定期的に行い、気軽に意見を出せるように心掛けている。その他、少なくとも年1回は個人面談を行い、じっくり話し合い、職員一人ひとりと向き合う場も設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんのケアにそえるよう、勤務時間を考え、その都度ローテーションを組んでいる。管理者は通常のシフトにはいれず、計画作成者は日中の勤務が多いため、利用者の状態に柔軟に対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員による支援を受けられるように、離職を最小限に抑える努力は行っている。離職がやむを得ない場合も、引き継ぎや時期の調整など最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外で開催される研修情報は必ず連絡し、職員育成のため受講できるようにしている。研修発表も行っている。休みを利用して自ら受講する方が多い。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	関連の事業所などと交流をもち、サービスの向上や意識向上を目的としている。何か良いこと、取り入れられそうなことは、皆で話し合い、活かさないか常に考えて取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常的に話をするように心掛け、身近な存在として関わっている。休みは確実に取り、連休にしたり、心身共にリフレッシュできるよう配慮している。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	現場で起きている状況や変化・職員の対応等を知るため、日々現場にいるよう心掛けている。コミュニケーションをとりながら職員と接し、各自が向上心をもって働けるように意識し、環境づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談で、生活状況を把握するよう努め、必要により体験入居をしていただき、ご本人の求めていることや不安を理解できるよう工夫している。必ずご本人にお会いして心身の状態やご本人の思いに向き合い、職員が受け入れられるよう関係づくりに努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合い、これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況など経緯をゆっくり聞き、次の段階の相談につなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅の方はすでに沢山のサービスを利用されている方が多く、早急な対応が必要な相談者には可能な限り、柔軟な対応を行い、スムーズに入居できるよう努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず事前に見学してもらい、状況によっては体験を取り入れる等の工夫を行い、安定した利用に移行している。また、やむを得ずすぐに利用することになった場合には、ご家族や関係者の協力を得て、安心感をもてるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の思いや不安などに常に耳を傾け、共に支え合える関係が築けるよう努めている。また、人生の大先輩であるという考えで接し、入居者さんに教えてもらう場面が多くもてるよう声掛けに配慮するとともに活動を工夫して行っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの日々の様子はもちろんのこと、思いなども細かく伝え、また、暮らしの中の出来事や気づいたことなどの情報を共有し、家族と同じような思いで支援し、ご本人を支えるための協力関係も築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	情報交換を密にし、レクリエーション・懇談会などには、積極的に参加していただき、よりよい関係が築けるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの知人・友人の家に行き来する等、継続的な交流ができるよう働きかけている。いつでも会いに行ってもらえるよう声掛けも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係について、職員全員が把握している。また、個別に話を聞き、相談にのったり気の合う人同士で過ごせるよう場面づくりをし、関係がうまくいくよう支援している。特に食事やお茶の時間に職員が入ることにより、孤立しないよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等の理由により、サービス利用が終了しても、面会に行き、元気づけたりしている。また、ご家族の不安が少しでも軽減できるよう立ち寄りいただいたりして、相談にのったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者さんの言葉に耳を傾け、会話を通して、思いや希望を確認し、場合によってカンファレンスを開き、その人らしい生活が送れるよう努めている。また、困難な場合には、ご家族を交え、話し合い、より良い生活が送れるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人・ご家族・関係者から話を聞き、センター方式を活かし、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を利用し、一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、できること・できないことを合わせて把握し、過ごし方を工夫し、本人の全体像を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を利用し、課題とケアのあり方を明確にし、ご家族・本人と話し合い、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間により見直しを行うことはもちろん、状態・状況の変化に対し、プランの変更を行い、ご家族への説明を行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフだけではなく、ご家族が見ても日々の様子・ケア内容や変化等、すぐわかるよう細かく記録に残し、日々の介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域がら、地域との様々な接点は見出せていないが、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけ、入居者さんの意向に沿えるように働きかけている。	○	社会福祉協議会にボランティア登録を行っている。料理のボランティアさんが来てくれ、昔懐かしい料理をつくってくれたりしているが、その他、色々今後見つけていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	希望や体調に応じ、訪問理美容サービスを利用いただいている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加していただけるようになって、関係を築くことができたが、まだ十分に共同しながら本人本位の支援には結びついていない。	○	これからは、運営推進会議を通じて、より強力関係を築き、周辺情報を得たり、支援に関する情報交換を行い、より本人本位の支援に結びつけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	よく知る看護職員に相談している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に生活状況を相談・報告し、治療が受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院担当看護師と気軽に相談できる関係となっており、日常の健康管理を支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	情報交換を密にして行い、安心して入院生活が送れるよう面会も行い、早期に退院できるよう連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	グループホームでできることが限られているため、病状の変化の際は、本人にとってどうあったらよいのか、ご家族の意向を大事に、できるだけ最大の支援ができるよう、その都度話し合っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人やご家族の意向を踏まえ、医療スタッフが連携し、意思を確認しながら取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	なるべく今まで使用していた使い慣れたものを持ってきていただいたり、思いでのものや写真などもご本人に合わせてダメージが少なくなるよう、配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	誇りやプライバシーを重んじ、一人ひとりに合った言葉掛けや記録を行っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	すべてスタッフが決定づけることはせず、一人ひとりに合わせた声掛けを行い、いろいろな場面において、自分で決定できるような工夫を行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れに沿っているが、時間を区切ったり余裕のない過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その時のご本人の気持ちを尊重している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝の着替えを本人の意向で決めてもらい、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。また、本人の馴染みの理美容院を利用できるようにしたり、訪問理美容も利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節や行事に合わせたメニューを取り入れたり、旬の食材を使用し、季節を感じて楽しんでもらっている。また、調理・盛り付け・後片付けを一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲水やおやつ時間を設けたり、また、好きな時に飲んでいただけるよう、コーナーを設置したりして、楽しみへとつなげている。タバコは職員で預かり、本人の希望にそって他の入居者さんの迷惑にならないように喫煙スペースをつくり、吸えるようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者さん一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者さん・ご家族の希望を確認し、入浴をしていただいている。また、入浴を拒む人に対しては、声掛けの工夫を行い一人ひとりに合わせた入浴を試みている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調・表情等を考慮し、散歩や買い物等の声掛けをしている。また、夜間に寝つけない入居者さんに対しては話をしたり、一緒に過ごす等の配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるような場面をつくり、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人によって管理能力も違うので、日々の様子をみながらお金を管理する支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分や体調に応じて心身の活性につながるよう、日常的に散歩・買い物・ドライブに出かけたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりが現時点での生活が精一杯で行ってみたい場所等を聞いても答えは返ってこないが、今後、機会があれば取り組む心構えで接している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じ電話を掛けたり、状態・状況に応じ、代行しお話できるようかわり、手紙に関しては読めない方には読んであげたりと配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	情報交換を密に行い、いつでも気軽に訪問できる環境をスタッフ一同心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員が理解しており、ミーティングを密に行い、常に意識しながらケアに取り込んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	一人で外に出そうな時には、無理に止めるのではなく、さりげなく声を掛け、一緒に外に出たり行きたい場所まで一緒に行くなどして、日中は鍵をかけずに自由に暮らせるよう支援している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	屋は共有の空間で一緒に過ごし、記録などの事務作業はもちろん、さりげなく全員の状況を把握している。また、夜間は数時間毎に様子を確認し、状況に応じて対応できるよう工夫している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者さん一人ひとりの能力・状況の変化に応じ、ご家族の方と相談しながら、危険防止に取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測できる危険を検討し、食事形態・歩行状態・夜間の入眠状態など、事故を防ぐための工夫に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時に備え、マニュアルを作成し、徹底を図っている。今後も救急手当・蘇生術の研修を実施する予定がある。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を行っており、消防署の協力得て、避難通路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その時の状況・状態により考えられるリスクに対しては、しっかりと話し合いを行い、ご家族にわかりやすく説明をしている。また、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の状況・状態を把握しており、食欲や顔色、また、様子の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、記録に残し、管理者・ご家族への報告を行っている。また、状況に応じて医療機関へ受診し、職員間での情報を共有し対応にあたっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	必ずどのような薬を服薬しているのか、飲み方、副作用を医師・薬剤師から指示をもらい、指示量が正確に内服できるようにしており、症状の変化にも注意し、観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	メニューやおやつには繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、便秘予防にあたっている。また、散歩や家事活動等を取り入れ、体を動かす機会を適度に設けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨き、義歯洗浄はもちろん、必要時には歯科受診し、アドバイスを一人ひとりに合った口腔内ケアが行えるよう支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日頃の様子を観察しながら、食べ物・飲み物の好み・苦手なものを捉え、一日全体で栄養・飲水量を把握している。その人に合わせた食事形態を提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する情報収集をその都度行い、入居者の方にはご家族の方の同意をさせていただき、職員とともにインフルエンザの予防接種を行っている。	○	感染症に関して、その都度情報収集を行い、職員に周知してもらっているが、今後、定期的な勉強会や細かいマニュアルを作成し、全職員で学習し予防対策に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・包丁・布きん・茶碗・かごは、必ず毎晩、漂泊して清潔にするよう心掛けている。冷蔵庫も定期的な掃除はもちろん、その時の状況に応じて清潔を保っている。また、残りの食材については鮮度や状態により冷凍したり処分している。水回りの衛生を保つよう職員で取り決め、実行しており、冷蔵庫・冷凍庫の食材点検を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	今は札幌トイカ病院が工事中のため、限られたスペースでありながらも花やベンチを置き、気軽に立ち寄れるような工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	全体的には不快な音・光はないものの現在、札幌トイカ病院が工中なので、期間中は理解していただくようにしている。光に関しては、西日に注意しカーテンをうまく利用するようにしている。季節感に関しては正月・各月々の催し物・イベントを楽しんでいただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間が居間・食堂等の限られた空間の中、ソファを離したり、窓側に喫煙スペースを設けたりして、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫を行っているが、まだまだ改善は必要である。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時はもちろん、ご家族と相談し、使いなれた馴染みのもの等を持ってきてもらい、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	シーツ交換時・居室内清掃・ホール清掃の時は必ず窓を開け、換気に努めている。温湿度は常にチェックし、居室の乾燥に気を配り、各居室内には加湿器を設置していただいている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所への手前は設置しており、各居室・ホールも段差をなくし、安全に歩行できるよう配慮している。浴槽内では滑り止めマットを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりのADLを理解し、何かトラブルめいたことがあった場合、スタッフが仲介に入り、混乱・失敗を未然に防ぎ、共同生活の場を理解していただいている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランター鉢を利用し、ミニ菜園で野菜・植物を育て、水やり・収穫を楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家庭的な雰囲気の中で心のケアに気を配り、安心、充実した生活、そしてその人らしい生活が送れるよう努めてまいります。また、自分が入りたいと思うグループホームをつくるということを全職員に明示し、それを実践してしております。